

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2015～2017

課題番号：15KT0049

研究課題名(和文) 東南アジア地域・境界地域の平和構築と紛争予防ガバナンスの確立

研究課題名(英文) The Establishment of for Peacebuilding and Conflict Prevention Governance in Southeast and its boundary areas

研究代表者

山田 満 (YAMADA, MITSURU)

早稲田大学・社会科学総合学院・教授

研究者番号：50279303

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：特に2年目、3年目の国際ワークショップの開催が大きな成果であった。2年目は、Asian Network for Free Elections: ANFRELの代表S, Ichal氏ら同ネットワークから3名を招聘し、東南アジアの民主化、自由で公正な選挙実施のためのガバナンスづくり、市民社会・NGOの民主化に対する役割を主題とした内容で開催した。3年目の国際ワークショップは、シンガポールの南洋工科大学非伝統的安全保障センター所長Mely C. Anthony教授ら、同コンソーシアム研究機関から3名を招聘して、非常事態における人道支援について議論した。その他、科学研究グループで2冊の本を出版した。

研究成果の概要(英文)：I would like to explain the second and the third year research. I had the international workshop regarding democratization, free & fair elections for good governance, and the role of civil society & NGO for democracy in 2017. Next year, I invited Dr. Mely C. Anthony who is head of Non-Traditional Security Studies, Nanyang Technological University. The NTS center is composed of consortium from 21 institutions in Asia. AHC; Waseda University Institute of Asian Human Community has been one of members since 2009. We had the international workshop of "Complex Emergencies and Humanitarian Response" that invited three NTS consortium members.

We also achieved to publish our academic performances concerning The Basic Knowledge about Refugee Issue and The Conflict Prevention in Southeast Asia & Human Security. Those books were written by joint researchers in this project.

研究分野：国際関係論

キーワード：紛争予防 平和構築 東南アジア 東南アジアの境界地域 市民社会 NGO ガバナンス 民主化

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、「紛争予防ガバナンスの確立」を目指した「アジア・ヒューマン・コミュニティ」の創造であった。概して紛争研究は、紛争の引金要因に注視しがちであるが、本研究では紛争に至る政治安全保障、経済技術、社会文化という三つの構造的、重層的要因から紛争を俯瞰し、紛争の事前回避のシステム（紛争予防ガバナンス）の確立を、東南アジア地域、さらに同境界地域で展開される紛争を事例にして、検証、考察をすることを目的とした。

(2)本研究の独創性は、アジア各地の研究者ネットワーク、NGO ネットワークを縦横に活かした「アジア・ヒューマン・コミュニティ」の創造を模索することであった。これらのネットワークを通じて、ボトム・アップ的アプローチを利用して、西欧を淵源とする国境概念を客観的立場から見直すことで、紛争解決のオルタナティブの提示を試みようとした。最後に、東南アジア地域の紛争を境界地域(曼荼羅)紛争と捉え、改めて検証、考察することを考えた。

2. 研究の目的

(1)本共同研究の目的は、「紛争予防ガバナンスの確立」を目指した「アジア・ヒューマン・コミュニティ」の創造である。紛争要因が概して紛争の引金要因に注視されがちであるが、実際は国際関係や国家・社会の構造的、重層的要因を背景に勃発している。

(2)そこで、三つの視点から本研究を進めることにした。第1が、政治安全保障的、経済技術的、社会文化的要因の三つの構造的、重層的視角から紛争を俯瞰すること。第2に、市民社会/非政府組織(NGO)ネットワークを活かした、ボトム・アップ的(仰角的)なアプローチの手法を取ること。第3に、東南アジア地域の紛争を境界地域(曼荼羅)紛争の視角から検証・考察すること。

3. 研究の方法

(1)本研究の中心的機関である早稲田大学地域・地域間機構 AHC (Asian Human Community) 研究所と設立以来関係構築がなされているシンガポールの南洋工科大学ラジャトナム国際学センターの非伝統的安全保障センター(Centre for Non-Traditional Security Studies: NTS)のアジア 20 機関のコンソーシアムとの連携を強化し、非伝統的安全保障と人間の安全保障の視角を重視した研究手法を採用した。

(2)市民社会・NGO の視角からは、アジア 11 カ国の NGO (研究者も所属) から構成されるバンコクを本拠地とする ANFREL (Asian Network for Free Elections) との協力関係を重視し、東南アジアの民主化、自由で公正な選挙とガバナンスの関係のあり方を研究することにした。

4. 研究成果

(1)平成 27 年(2015 年)度は、7 月に特設分野研究の助成採択が決定されたこともあり、夏期共同研究調査には代表者と分担者 2 名の計 3 名で東ティモール調査を実施した。秋の学会報告では、日本国際政治学会東南アジア分科会で研究報告を行った。その他、同共同研究者の所属する学会で報告を行っている。2016 年 1 月には故人となったスリン・ピッツワン元 ASEAN 事務局長の早稲田大学訪問を機会に、同氏の講演会並びに本共同研究者との意見交換会を実施した。

(2)平成 28 年(2016 年)度は、本格的な共同研究を実施した。8 月にインドネシア・バリで開催された Asian Electoral Stakeholder Forum に当研究会から参加した。また、11 月には、当研究会主催の国際ワークショップ“Election and Civil Society in Asia: The Role of Free and Fair Election toward Peacebuilding”を開催し、ANFREL 代表 Ichal Supriadi 氏をはじめ、ANFREL ネットワークから他に 2 名を招聘して公開講座を含めて議論する機会をつくった。

また、研究代表者、分担者、協力者が参加する書籍を出版した。『難民を知るための基礎知識』(滝澤三郎・山田満編、明石書店、2017 年 1 月)に関しては、出版記念シンポジウムを開催し、「人間の安全保障」の視角から難民問題の理解を広げた。『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』(山田満編、明石書店、2016 年 11 月)では、副題にあるように、武力紛争、難民、災害、社会的排除への対応と解決に向けた議論と問題提起を行った。

(3)平成 29 年(2017 年)度は、南洋工科大学非伝統的安全保障センターとの共同国際ワークショップを早稲田大学で実施した。同センター長の Mely C. Anthony 教授らコンソーシアムを組んでいる研究機関から 3 名を招聘した。“Complex Emergencies and Humanitarian Responses”をテーマに、AHC 研究所研究員が参加し、報告者、討論者として国際ワークショップを成功させた。その他、2017 年実施のカンボジア地方選挙および東ティモール国民議会選挙監視団に参加し、その報告会を開催した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 21 件)

山田満、東ティモールの新たな政治課題、アジア太平洋討究、査読無、31 巻、2018、139-151

上杉勇司、国家建設と平和構築をつなぐ「折衷的平和構築論」の精緻化に向けて、国際安全保障、査読有、45 巻 2 号、2017、55-74

Miki HONDA, UN Targeted Sanctions

and Human Rights: Emerging legal challenges and political concerns, Waseda Studies in Social Sciences, Non-Referee, No.17-2, 2017, 25-41

本多美樹、安全保障概念の多様化と国連安全保障決議、アジア太平洋討究、査読無、31巻、2018、121-138

平川幸子、アジア太平洋のリベラルな地域秩序-ASEANと台湾に光を、問題と研究、査読無、46巻3号、2017、33-63

平川幸子、中国のエネルギー政策と地域主義外交-「一帯一路」のモデルとしての中央アジア、アジア太平洋討究、査読無、2018、89-101

田中(坂部)有佳子、A 'Local' Response to Peacebuilding Efforts in Timor-Leste, JICA-RI Working Paper, Non-Referee, 2018, 1-34

田中(坂部)有佳子、治安部門改革におけるハイブリッドな平和構築への課題-「ローカル」と外部アクターの役割、防衛法研究、査読無、41巻、2017、61-77

田中紗和子、作業療法の脱構築-ニカラグアにおけるピース手芸を通じた障害児支援の事例から、福祉社会開発研究、13巻、2018、71-79

滝澤三郎、日本の「難民政策」の課題と展望、国際もんだい、査読無、662巻、2017、38-50

滝澤三郎、Financial Governance of UNHCR (Part 1)、東洋英和女学院大学大学院紀要、査読無、13巻、2016、37-56

桑名恵、紛争後の平和構築過程における市民社会支援の課題と展望、立命館国際地域研究、査読無、42巻、2016、23-38

山田満、東南アジア・同境界地域の紛争解決と平和構築、国際政治、査読有、185号、2016、17-32

本多倫彬、JICAの平和構築支援の史的展開(1999-2015)-日本流平和構築アプローチの形成、国際政治、査読有、186号、2017、97-112

桑名恵、人道支援におけるマルチセクター・プラットフォームの形成から生まれるイノベーションの展望、国際学研究、査読無、1巻、2016、109-127

平川幸子、台湾のTTP/RCEP政策の実現可能性、問題と研究、査読有、45巻1号、2016、77-108

山田満、東ティモールのASEAN加盟問題、海外事情、査読無、63巻4号、2015、80-90

山田満、ミャンマーはどこに向かうのか、潮、査読無、683巻、2016、60-65

上杉勇司、和平支援での外交と開発の連携、海外事情、査読無、63巻10号、2015、51-66

本多倫彬、国連の平和活動の新展開とエンジニアリング・ピース、KEIO SFC JOURNAL、査読無、15巻2号、2016、

340-361

21 峯田史郎、地域形成の多層性とスケールにおける権力関係、北東アジア地域研究、査読有、21巻、2015、79-94

〔学会発表〕(計 29 件)

1. 上杉勇司、“Evaluating the Legacy of UN ‘Neo-Trusteeship’ in Timor-Leste,” 人間の安全保障学会、2017

2. 上杉勇司、“Interactive Hybrid Peacibuilding,” Asia-pacific Conference、2017

3. 本多美樹、「国連安保理による経済制裁の変遷と新たな局面」、金融制裁研究会、2017

4. 本多美樹、「国際秩序の維持と平和構築戦略としての『法の支配』」、日本国際平和構築協会研究会、2017

5. 平川幸子、「アジア太平洋のリベラルな地域秩序 ASEANと台湾に光を」、アジア政経学会、2017

6. 平川幸子、「中国のエネルギー政策と地域主義外交 『一帯一路』のモデルとしての中央アジア」、日本国際政治学会、2017

7. Sachiko Hirakawa, “A Liberal Asia-Pacific Regional Order an Japan’s Diplomacy,” The College of ASEAN Community Studies, Naresuan University, 2018

8. 本多倫彬、「日本流平和構築アプローチの形成」、グローバル・ガバナンス学会、2017

9. 本多倫彬、「国際平和協力の変容と展望」、日本防衛学会、2017

10. 本多倫彬、「国際平和協力とエンジニアリング・ピース：制服を着た技術者のつくるPKO活動」、防衛施設学会、2018

11. 田中紗和子、「障害者スポーツの社会的側面に着目した障害者支援の可能性」、日本作業療法学会、2017

12. 島崎裕子、“Survey on Actual Conditions of Child Soldiers during Cambodian Civil War Considering Peace Reconstruction in Cambodia,” Society for Applied Anthropology Annual meeting, 2018

13. Luis A. Marques, “Theoretical Foundations of Vocational and Technical Education and the Part they play in the Process of State Building,” The Faculty of Don Bosco Technical College, 2017

14. 上杉勇司、「折衷的平和構築論の精緻化に向けた取り組み-アジアにおける平和構築の事例の比較研究」、国際安全保障学会、2016/12/4、大阪大学

15. Yuji Uesugi, “New Authoritarianism in International Peacebuilding,” Australian Political Studies Association, 2016/9/26-27, University

- of New South Wales
16. Yuji Uesugi, “Challenges of Hybrid Peacebuilding in Asia,” Asian Pacific Conference, 2016/11/5、立命館アジア太平洋大学
 17. Miki Honda, “United Nations ‘Smart Sanctions’ on Non-State Entities-Naming and Shaming,” Academic Council on the United System, 2016/6/17, Fordham University
 18. 本多美樹, 「国連におけるガバナンス概念とその発展」, 国際連合学会、2016/6/11、上智大学
 19. Megumi Kuwana, “Potentials and challenges of making a multi-sectorial platform in Humanitarian Actions: In a case of Asia Pacific Alliance for Disaster Management in Sri-Lanka,” Japan Association for Human Security Studies, 2016/12/11, 創価大学
 20. 平川幸子, 「戦後東南アジアの多国間制度形成 英国・日本の経済社会イニシアティブ」, グローバル・ガバナンス学会、2016/5/14、早稲田大学
 21. 峯田史郎, 「東南アジア大陸部と中国におけるスケール間関係 メコン流域の水資源開発を事例に」, 北東アジア学会、2016/10/9、慶應義塾大学
 22. Luis A. Marques, “Theoretical Foundations of Vocational and Technical Education and the Part They play in the Process of State Building,” World Engineering Education Forum WEEF&GEDC 2016 Korea, 2016/11/7-10, Soul
 23. 上杉勇司, 「日本のハイブリッドな連携：All Japan の現状と限界、今後への課題」, 国際政治学会、2015/10/30、仙台国際会議場
 24. 本多美樹, 「国連によるガバナンスの概念と発展」, グローバル・ガバナンス学会、2015/12/13、早稲田大学
 25. Miki Honda, “UN Targeted Sanction and Human Rights: Growing Legal Challenges and Political Concerns,” International Studies Association, 2016/3/18, Atlanta, US
 26. 平川幸子, 「台湾の TPP/RCEP 政策 相反する道のり」, アジア政経学会、2015/10/17、常磐大学
 27. 島崎裕子, 「強制立ち退き居住者に対する社会的排除」, 国際開発学会、2015/11/29、新潟大学
 28. 桑名恵, 「国際的なサービスマーケティング科目の効果的な授業の考察」, 国際ボランティア学会、2016/2/29、久留米大学
 29. Sawako Tanaka, “Community Support through Creating a Space as an Opportunity of Participation,” 第3回アジア太平洋 CBR 会議、2015/9/1-3、京王

プラザホテル、東京

〔図書〕(計 32 件)

1. 山田満 他、明石書店、難民を知るための基礎知識、2017、371
2. 山田満 他、慶應義塾大学出版会、東南アジア地域入門 3 政治、2017、249
3. Yuji Uesugi, Palgrave, National Security, State-centricity and Governance in East Asia, 2017, 160
4. Yuji Uesugi, Brill, Peacebuilding and the Asia-Pacific, 2016, 178
5. 上杉勇司 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
6. 滝澤三郎 他、明石書店、難民を知るための基礎知識、2017、371
7. 本多美樹 他、国際書院、国際機構論活動編、2017、311
8. 本多美樹 他、志學社、経済制裁の研究、2017、253
9. 本多美樹 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
10. 本多美樹 他、法律文化社、入門国際機構論、2016、353
11. 本多倫彬 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
12. 田中(坂部)有佳子 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
13. 桑名恵 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
14. 島崎裕子 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
15. 平川幸子 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
16. Sachiko Hirakawa others, Routledge, Regional Community Building in East Asia: Countries in Focus, 2016, 326
17. 田中紗和子 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
18. 峯田史郎 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
19. 山田満 他、ミネルヴァ書房、東南アジア現代政治入門(改訂版) 2018、320
20. 本多倫彬、内外出版社、平和構築の模索-自衛隊 PKO 派遣の挑戦と帰結、2017、352
21. 本多倫彬 他、旬報社、21 世紀国際社会を考える、2017、392
22. 滝澤三郎 他、日本評論社、人間の安全保障と平和構築、2017、284
23. 山田満 他、文眞堂、ASEAN 経済新時代と日本、2016、370
24. 山田満 他、法律文化社、平和と安全保障を考える事典、700
25. 上杉勇司 他、大学教育出版、紛争解決学入門、2016、183
26. 上杉勇司、本多倫彬 他、内外出版社、

- 世界に向けたオールジャパン、2016、264
27. 本多倫彬 他、ミネルヴァ書房、新しい戦争とは何か、2016、320
 28. 本多美樹 他、文眞堂、東アジア経済と労働移動、2015、265
 29. 本多美樹 他、国際書院、国際機構論総合編、2015、329
 30. 桑名恵 他、世界思想社、新版国際協力を学ぶ人たちのために、2016、416
 31. 山田満 他、明石書店、東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」2016、249
 32. 山田満 他、明石書店、ASEANを知るための50章、2015、322

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

山田 満 (YAMADA, Mitsuru)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：50279303

(2)研究分担者

上杉 勇司 (UESUGI, Yuji)
早稲田大学・国際学術院・教授
研究者番号：20403610

本多 美樹 (HONDA, Miki)
法政大学・法学部・教授
研究者番号：30572995

平川 幸子 (HIRAKAWA, Sachiko)
早稲田大学・留学生センター・准教授
研究者番号：80570176

本多 倫彬 (HONDA, Tomoaki)
慶應義塾大学・総合政策学部・特別研究員
研究者番号：30750103

田中 有佳子 (TANAKA, Yukako)
青山学院大学・国際政治経済学部・助教
研究者番号：50732715

滝澤 三郎 (TAKIZAWA, Saburi)
東洋英和女学院大学・国際社会学部・客員教授
研究者番号：30554935

桑名 恵 (KUWANA, Megumi)
近畿大学・国際学部・准教授
研究者番号：80596073

島崎 裕子 (SHIMAZAKI, Yuko)
早稲田大学・社会科学総合学術院・准教授
研究者番号：90570086

マルケス ルイス (MARQUES, Luis)
サレジアオ工業専門高等学校・一般教育学科・准教授
研究者番号：10451387

田中 紗和子 (TANAKA, Sawako)
国際医療福祉大学・保健医療学部・助教
研究者番号：90732850

(3)連携研究者

()
研究者番号：

(4)研究協力者

峯田 史郎 (MINETA, Shiro)
宮下 大夢 (MIYASHITA, Hiromu)
阿部 和美 (ABE, Kazumi)